

子供が生母に会いたいと言い出したら

【 子供のころ 】

子供はなぜルーツ探しが必要なのでしょう。子供は成長すると自分がこの家族のもとにやってきた理由について自然な疑問を持つようになります

【 お母さんについて知りたい 】

お母さんはどんな人だったんだろう 身長は 髪の毛の長さは どんな服がすきだったんだろう
どんな料理が好きだったんだろう どんな所に住んでいたんだろう 何を食べていたんだろう
どんな仕事をしていたんだろう 私と同じ学生だったんだろうか 運動は得意だったんだろうか
どんな本がすきだったんだろう どんな風景を見ていたのだろう どんな曲が好きだったんだろう
う そんなことを考えるようになります。そして

お母さんは優しい人だったんだろうか 僕は捨てられたのだろうか 僕のことをちょっとは考えてくれたんだろうか 迷ってくれたんだろうか 悩んでくれたんだろうか 育てようと思ってくれたんだろうか 僕のこと好きだったんだろうか と考えるようになります。

【 お母さんの家族について知りたい 】

また子供は自分の祖父母や叔父叔母についても考えるようになります。おばあちゃんはどうな人だったんだろう おじいちゃんはどうな人だったんだろう どんなお仕事をしていたんだろう
どんな所に住んでいたんだろうか お母さんに兄弟はいたんだろうか お母さんの兄弟はどうな兄弟だったんだろうか スポーツが得意だったんだろうか どんな料理が得意だったんだろうか
勉強がよくできたんだろうか 優しかったんだろうか 背は高かったんだろうか と家族のことについても考えるようになります。

また子供は自分の兄弟についても考えるようになります。お母さんには お母さんが産んだ子供(兄弟)がいるんだろうか どんな兄弟なんだろう 勉強頑張っているのかな かけっこ早いのかな スポーツ得意なのかな お話ししてみたいな

【 アイデンティティの形成障害について 】

子供はこれらのことについて質問しても答えてもらえない状態が続くと 『 僕の胸にはぽっかりと穴が開いている 大きな大きな穴が開いているんだ この穴の隙間を埋めるピースを探している それがおかあさんなんだ 』 だから おかあさんにあって話を聞きたい。

さらにこの状態のままにもされないでいると 『 私はこの惑星の子供じゃない どこか別の惑星からついてこられた子供なんだ そして家の中にいる人は人間の皮をかぶっているけれども中身は人間じゃない そしてここは私のいる場所じゃない ここは私の居場所じゃない 』 というアイデンティティの形成障害を起こすようになってゆきます

【 子供は知りたいだけ 】

こどもは知りたいだけなのです お母さんがどんな人なのか
こどもは知りたいだけなのです お母さんが自分と別れるとき 悲しんでくれたか
こどもは知りたいだけなのです ぼくに兄弟がいるのかどうか

そして こどもは あなたのことを嫌いになったわけでもありません
こどもは あなたの家から出ていきたいわけでもありません
こどもは あなたのやさしさを忘れてしまったわけでもありません
こどもは あなたのことが大好きです。嘘をつきたくないのです。だから打ち明けたのです
こどもは あなたのごはんが大好きです。もう食べたくないと言っているわけでもありません
こどもは あなたのうちが大好きです。こども部屋を出ていきたいわけでもありません。

こどもは おはなしができれば あなたのもとに帰ってきたいのです
こどもは お顔がみえたら あなたにどんなお顔だったかお話したいのです
こどもは 兄弟と遊んだら あなたのもとの遊びつかれてねんねしたいのです。

【 養子の心理 】

養子というものは生まれてきた経緯がどうであろうとも 血が繋がっている両親について知りたくなるものです。これは理屈でどうにかできるものではありません。養子が考えまいと抑え込んでもどうにもすることができないものです。『 自分はどこからやって来たのか。自分は何者なのか 』 という根源的な質問。これは普段の生活がどれだけ快適でも どれだけ家庭が居心地よくても 養親との生活にどれだけ満足していても それとは全く関係のない別次元の問題なのです。

【 養子がルーツ探しをしたいと言いだしたら 】

親探しはどの養子でも考える自然な感情です。養親さんを否定しているわけでもありません。ルーツに会って話をしたいだけです。親の元を離れたいわけでもありませんし嫌いなわけでもありません。ただ知りたい。それだけです。ただそれだけなのです。

大昔の親はルーツ探しをしたいと言われると 『 会ってはならない どうしてそんなことを言うのか そんなことを言うのは私たちの子供じゃない 』 と拒絶していました。そして子供は複雑な感情を抱きながらルーツ探しを断念していました。ですがその時代は親にとっても不幸な時代でした。親には全くサポートがありませんでした。何もかもすべてが独力での手探りでした。親だってどうしていいかわからなかったのです。そしてほんとうは子供にそんなこと言いたくなかったのです。そんな苦しい時代がありました。

子供はルーツ探しをしたいと思ったら 親が何と言おうと行動します。親探しは 結婚の時と同じです。逆らったら駆け落ちするだけです。逆らってはいけません。協力あるのみです。

子供にとっては気になる人がいるだけです。気が済むまで探してもらえばいいんです。会ってもらえばいいんです。親が止めません。子供がやりたいと言ったらやりたいようにさせておきます。親は忖度してはいけません。子供のやりたいようにやらせます。なぜなら止めようと思っても止まらないからです。止めたら不満のはけ口が一気に親に向きます。

養子のうち 5～10%は養親が何と言おうと自分で勝手にルーツ探しをはじめます。養子を対象としたアンケートでは 『 もしルーツ探しをして生母が見つかったとしたら会いたい？ 』 という質問をしたところ全員が会いたいと答えています。

これを親が矢面に立って止める必要はありません。ただし注意点があります。必ず支援者のもとに行かせます。子供だけで親探しはさせません。そこだけは約束させます。支援者と相談させなが

ら親探しをさせます。

【 ルーツ探しをしたいと言い出したら子供は止まらない 】

子供がルーツ探しをしたいと言葉にして言うことは子供にとってはもはや大事件です。親はなかなか直向きできませんが本質は子供からのカミングアウトです。確かにいきなり言われても親としては動揺してばかりでどう扱ったらいいのか分からないというのが実情です。そのため苦し紛れに『 親探しをするにはまだ早いのではないのか(精神的負荷に耐えられないのではないのか)』『 進学を控えたこの時期に何を言っているの!! 勉強に専念しなさい 』と言ってしまふかもしれません。ですが勇気を振り絞って吐き出したカミングアウトです。そんなことでは止まりません。仮に大人しくしているように見えるときは見えないところで動いていたり 心は既に両親から離れ始めています。(とりあえず断るではなく)とりあえず受諾するようにしてください。受諾は即行動という意味ではありません。受諾してそこから考えたり調べてもいいのです。実際にルーツ探しを始めてもすぐに事態が急展開するわけではありません。分からないこともたくさんあります。壁もたくさんあります。時間がかかる取り組みです。そこについては子供は文句を言いません。

【 支援者に連絡する 】

支援者は養子がルーツ探しをしたいと言い出したら なぜ産親に会いたいのかじっくり時間をかけて考えてもらいます。遺伝的な繋がりが知りたいのか 自分は何者であるかという問いかけから出たものなのか 私が私を足らしめているものは何かという自己定義なのか 自分へとつながる歴史が知りたいのか それともただ会いたいだけなのか。それを自分自身で探させます。それによってゴールを設定します。あるいは何をゴールとすればいいのか支援者も想定することができます。なぜならルーツ探しは必ずしも幸せな結果ばかりではありません。不幸な結果もあります。何もわからないことだってあります。しかしあらかじめ知りたいことを明確にしておくことによってたとえすべての情報が得られなかったとしてもその過程が意味を成してきます。そしてそれだけの準備をしておきます。

あるいは会って話がしたいというのは 知りたい と 会いたい に分かれていることがあります。知れるだけで十分なこともあります。あるいは時間とともに会ってみたいと変化することもあります。

【 ルーツ探し(親子面会交流)について 】

子供が委託に至った経緯には 良い話も悪い話もあります。そもそも何もなければ母親は自分一人であっても独力で育てます。それができなかつたからには できないだけの事情があります。そのため子供さんにはあらかじめ様々なシュミレーションをしていただきます。

- そもそも どのような理由で 探そうと思ったのか
何をゴールにするのか 何を達成すればよしとするのか
- 今 会う時期なのか 会えないとすれば 何が足りないのか
相手の準備はどうか 相手は会える状況なのか
- 妊娠した理由について想定しておく できるだけ悪い想定をしておく
- 返事や面会について想定しておく できるだけ悪い拒絶を想定をしておく

【 悪い情報ですら良い情報 】

養子縁組に至る理由について 好ましくないとされる理由であっても（性犯罪 虐待 遺棄 薬物中毒）あらかじめ想定させて準備しておくとの用意ができます。養育を放棄するだけの苦しい背景があつて養子縁組に至っているのです。必ずしも幸せな理由ではありません。しかし苦しければ苦しいほど 悲しければ悲しいほど 苦しい悲しい理由は自分と生母を断ち切らせるだけの 自分を納得させるだけの理由になります。生母に会うことはいいことばかりではありません。悪いこともあります。しかしその過程で得られるすべての情報が子供にとってはいい情報なのです。悪い情報ですらいい情報なのです。子供が納得するだけのいい情報なのです。その情報で子供は自分の物語を創ります。最終的には自分の物語に自分が納得できればそれで得心するのです。それもゴールです。

【 全ての情報が必要な情報 】

生母や生父に関する情報はすべて必要な情報です。重要でないと思える情報ですら養子にとってはすべて必要な貴重な情報です。生母や生父の 好きな食べ物 得意なこと 仕事 学校の成績 いつも見ていた風景 住んでいた場所 好きな服 習慣 好きな本 口癖 好きな歌 これらすべて必要な情報です。これらの情報により養子は生母や生父の人物像を構築できます。なぜなら生母に会えないことも（死去や拒絶）ありうるからです。子供にとっては良い情報も悪い情報もすべてが自分にとっての真実だからです。

【 家庭裁判所の皆様へ 】

この文章をお読みになられているということは 養親さんが 子供が養子縁組をするに至った経緯について裁判記録の開示請求をするために裁判所へお越しになられたからではないかと思えます。あるいは養子さん自身が開示請求をするために来られたのではないかと思えます。

そして開示請求をされたけれども開示に躊躇されたり 委託に至るまでの経緯を鑑みて却下しようか迷われているからではないかと存じます。裁判記録を読み返してみると 子供が委託に至った経緯が子供にとってあまりにも過酷な理由であるため 子供がその理由を知ることにより子供を傷つけてしまうのではないかと そして子供にはそんな思いをさせたくない。だから開示することができない。あるいは委託に至った経緯が 生母の名誉と心を傷つけるため これを開示することにより再び生母を傷つけるのではないかと考えられたため あるいは 産み親に犯罪歴や反社会的勢力との繋がりがあリ ルーツ探しをすることが子供の安全な家庭を脅かすことになるのではないかと考えられたからと存じます。そのようなご配慮をいただけたこと誠に嬉しく存じます。そしてご配慮いただけた感謝とともにご提案がございます。

子供はどのような経緯があろうとも 自分が養育されなかった理由について 養育を断念させざるを得なかった理由について 知りたいと思うものなのです。そして 裁判所の記録の保存期間は5年しかありません。子供が本当に知りたいと思ひ 理解できる能力が得られるには15年から20年近く必要です。それまで裁判記録をすべて保存することは可能でしょうか。あるいは 母親の情報について可能な限りマスキングせずに情報開示することは可能でしょうか。

とはいっても開示についてもご不安に思われているのではないかと存じます。そこで開示条件を付けて（例えば情報開示を行うが母親の名誉を傷つけないように弁護士から説明してもらうこと。あるいは保管について弁護士事務所の預かりにして○年後に弁護士から開示してもらうことなど）

情報開示や管理を委譲することは可能でしょうか。子供にとって裁判記録は自分の委託された経緯を知るための大切な情報です。全ての子供が生母と会えるわけではありません。面会を拒否されたり 死去していたり 失踪してルーツを辿れないこともあります。しかし 5年が経過して裁判記録が破棄されたりマスキングされてしまったら 子供は知りえる情報をみすみす失ったり得られずにおわってしまいます。破棄されてしまうともう取り返すことができません。マスキングされてしまうと永遠に知ることはできません。これらについてご勘案いただければ幸甚です。

【 コラム 子供はなかなか言い出せない 】

養子は12歳ぐらいになったら心の底では親探しをしたいと思っています。けれども真面目な子供ほど優等生になりたがります。親探しをしたいと思ってもずっと言い出しません。親が悲しむであろうと忖度して黙ったまま思い煩います。親が席を外した時 支援者にだけこっそり打ち明けてくれるということがありました。

子供のなかにはルーツ探しをしたいと養親に打ち明けて一緒に探してもらえる養子もいますがほとんどの養子は『 そんなことを言い出したら養親が悲しんでしまう・・・ 』 『 怒られたらどうしよう・・・ 』と考えてなかなか言い出せません。

【 コラム 胸がいっぱい 】

中学生になった〇〇歳のころ やっと私は生母さんと会うことができました。生母さんに聞きたいことはたくさんありました。『 お母さん私と別れて悲しかった？ お母さん私のこと考えてくれた？ 』でも実際に会ってみるとあれだけ聞きたいことがあったのに 胸がいっぱいになって何も聞けませんでした。言いたいことがいっぱいありました。聞きたいこといっぱいありました。でもいっぱいありすぎて言葉になりませんでした。胸がつかえて言葉が出てこなかったのです。出てくるのは涙だけでした。涙しか出てきませんでした。でもでも会えたのはとってもよかったです。また日を改めて会ってみたいです。次は聞きたいことを紙に書きだして質問できるようにしますとのことでした。

【 コラム ある養子のルーツ探しについての話 】

私の両親（養父母）は 最初は自分のルーツ探しに肯定的であったが しつこく自分のルーツを質問する私に徐々に疲れてきて 『 もうこの話はしない 』と相手をしなくなってきた。

20代になったとき 両親は古い手書きの書類を渡してくれた。そこには生母と生父の情報が同封してあった。しかし決め手となる情報や写真は入っていなかった。

30代になったときより踏み込んだルーツ探しを開始した。20代という精神的・経済的・社会的に不安定な時期が終わり 30代になり経済的にも精神的にも自立し自分の力で自分の人生を歩み始められるようになりもう一度自分の両親（生母生父）を探すことにした。

30代のあるクリスマスに 生母や生父についての2回目の書類を養親からもらった。書類を開いてみると自分の生まれた時についていた名前 性別 体重 産まれた病院 生母の名前 生父の名前が書いてあった。なぜこんな重要な情報を今まで隠していたのか理解できなかった。今まで隠し持っていた両親（養父母）に激しい怒りが湧いた。『 どうしてこれを今まで見せてくれなかったんだ 』と怒りをぶつけた。これは私に対する養親の裏切りであり養親が許せなかった。子どもは親の所有物ではない。けれども親は子供を自分の自由にできる所有物と考えているのではないか。

しかし自分にとって大事な情報をなぜ養親は渡さなかったのだろうか。今にして思えば養親も悩み苦しんでいたのではないだろうか。そしてそれ以上に私が苦しんでいる姿を見て私が怒られることを覚悟のうえですべての情報を渡すことにしたのではないかと思っている。

最近では養親も子供の成長とともに考えや気持ちに変化してゆくのではないかと思うようになってきた。生まれたばかりの小さな私がこの家にやってきたとき 両親は育てるだけで精一杯だったのではないだろうか。そしてだんだん自我が芽生え 自己主張をするようになり 反抗期が始まり自分の出自を探すようになり その時になってやっといろいろとわかってくることもあるのではないだろうか。

生母や生父の写真を見たが私とは似ていなかった。むしろ養親の方が私に似ている。そんな養親そっくりで育った私がルーツを探し始めたとき いつまでも続くと思われた穏やかな団欒の日々や日常のゆったりした時間が揺らいだ時 養親は冷静ではいられなくなるものなのかもしれない。

養親への支援があまりにもない時代だった。私がこの家庭に迎えられた当時は大きな戦争もあった。自分たちが生きるだけで精いっぱい時代だった。そんな時代に何の支援もなく私を迎え入れた両親（養親）は何もわからないまま私を育て 何の準備もないまま私のルーツ探しに向き合い手探りで進んだのである。おそらく恐怖もあったのではないかと思う。私が生母について尋ねるたび私が養親のもとを去ろうとしているのではないか あるいは私から親と認めてもらえていなかったのではないかと失望していたのかもしれない。養親は『 忘れていただけ・・・ 』と言葉を濁していたが本当のところは分からない。

30代半ばのとき 私は生母に会いに行くことに決めた。生母に会いに行くと言ったら養親はとても拗ねていた。父親に至っては実母のもとに行くのであれば親権を放棄して親子の縁を切る 財産もやらないと言っていた。私はただ会うだけである。養親と袂を分かつとも言っていないし 生母と生活するとも言っていない。

今にして考えてみると生母への負い目 自分が産めなかった悔しさ 生母になんて負けるものかという敵愾心もあったのではないかと思う。あるいは血縁という価値観に対する敗北感もあるのかもしれない。

あるいは生母に対する不安もあるのかもしれない。育てられないだけの理由があつて養子縁組したわけである。生母のもとに養子が帰ってゆくと虐待されるのではないか 貧しい生活になるのではないか 苦しい生活になるのではないか 進学などさせてもらえないかもしれない。あれだけ愛情をかけて育てた子供がみすみす不幸になることを黙って見ていられない。そしてそんな愛情をかけた子が家を出ていく（正確には面会するだけであるが）。それが耐えられなかったのかもしれない。

あるいは二つの両親がいることに養子が混乱するのはかわいそうだと考えたのかもしれない。親は養親だけでいい。そう考えたかもしれない。そんな養親たちの悩みに答えは与えられず支援の手は差し伸べられなかった。そんな時代だった。

【 ルーツについて知りたい理由のその裏に 】

子供がルーツ探しをする理由は人それぞれです。逢うことの叶わない生母を慮る気持ちからという人もいれば 傷つけたい返ししたいという理由の人もいます。ルーツ探しをする理由は子供の精神状態によってかなり左右されます。支援者は子供の反応と付き合いながら話を進めてゆくことになりませんが カウンセリングを優先させることも必要です。あるいは子供が養親の反応によって

振り回されて不安定になっていることもあります。時には養親のカウンセリングを優先することも必要です。

【 子供が不安定になる時 】

養親から叱られた時 養親がイライラしてる時 養親からきつい言葉をかけられた時 自分のやることがうまくいかない時 子供は不安定になります。そして全く関係ないことを さも関連があるように思い込んでしまうことがあります。『 自分が養子だから叱られた。自分が養子だから養親がイライラする。自分が養子だからきつい言葉を言われる 』。他人からすると全く関連しないただの思い込みですが 養子にとっては覆すことのできない厳然たる事実のように感じていることがあります。

【 養親も不安定になる 】

養親も子供の反応によって不安定になることがあります。子供が言うことを聞かない時 子供が隠し事をする時 子供が悪さをした時 養親は不安定になります。そして全く関係ないことを関連付けてしまうことがあります。『 自分と血が繋がっていないから子供は言うことを聞かないんだ。自分と血が繋がっていないから子供は隠し事をするんだ。秘密を持つんだ。全てを打ち明けてくれないんだ。子供が悪いことをするのは親として失格なんだ。やっぱり血が繋がっていないから親にはなれなかったんだ 』。他人からすると全くの妄想としか聞こえないのですが 養親にとっては確固たる覆すことのできない事実のように感じていることがあります。

【 養親は完璧でなくてもいい 】

養親だって人間です。ルーツ探しについて何も知らないのにいきなり壁にぶつかるのです。いきなり手探りで始めるのです。完璧にできるはずがありません。でもやらないとまらないのです。ですから養親さんには支援者に頼りっきりでもいいので 子供と一緒に会話しながら 一緒にやっ
てゆきましょうと提案しています。サポートを受けながら 子供と一緒に乗り越えていく姿を見せると 子供も親を頼りはじめるようになります。なぜなら親が苦しんでいるのは自分が原因だからです。自分がルーツ探しをすと言いだしたので 親は苦しんでいるのです。自分のために悩んでいる姿をみて子供は親の苦しみを直接見ることになります。苦しむ原因は養子自身が作っているのですから。自分のために親が苦しんでいることをひしひしと感じとります。親の苦しみをつぶさに見ているのでルーツ探しを乗り越えた時 その苦労をはねのけて前向きに進む人生の先輩として尊敬とともに同じ苦労を分かち合った家族として 家族の絆がかつてないほど強固になるというのはこのプロセスを経るからなのです。

【 ルーツ探し（親子面会交流）を乗り越えた先輩養親の言葉は役に立つ 】

ルーツ探しを終え親子面会交流を自然に行えるようになった養親さんはサバイバーと言っても差し支えないでしょう。ここに至ったサバイバー養親さんはたくさんの経験と引き出しを持っています。子供の反応に振り回されたり落ち込んだりするなかで たくさんの経験も対処方法もセラピーも受けてきました。落ち込んで復活してきました。もう少々のことではびくともしません。子供の反応にいちいち振り回されず 子供をみつめられるようになっていきます。そして困った時にこそ的確に相談に乗ってくれるようになります。子供の成長段階では色々な反応があります。成長し

ているからこそその反応です。サバイバー養親さんはこれらの反応を乗り越えた百戦錬磨の戦士です。サバイバー養親さんこそ これからルーツ探し（親子面会交流）を迎える新人養親さんの案内役や相談役になることができます。

【 養子縁組家庭では質的にも量的にも豊富なコミュニケーションが必要になってくる 】

日本人の家庭では家族間でのコミュニケーションが極端に少ないです。思い返していただけるといいのですが夫婦でどれだけコミュニケーションしているのでしょうか。ほとんど話をしないというご夫婦が多いのではないのでしょうか。それなのに親子の間ではもっとコミュニケーションが少なくなります。思い返してみてください。自分の両親とどれだけコミュニケーションしていますか。あるいはしていましたか。かなり少ないよね・・・と思いつける方も多いのではないのでしょうか。かくいう私も両親とのコミュニケーションはかなり少ないです（汗!!）。これだけコミュニケーションが少ないのに さらに質的にも量的にも豊富なコミュニケーションが必要なルーツ探し（親子面会交流）についてのお話をするのです。いまのままのコミュニケーションではうまくいくはずがありませんよね。あるいはコミュニケーションの質についてのトレーニングも必要ですよ。養子家庭さんでは通常の家よりもっともっと量的にも質的にも豊富なコミュニケーションをすることが要求されるのです。

【 親になると子供の心は分からなくなってしまう 】

大人だけで子供の話をしても子供のことはわかりません。自分が子供だった時に感じていたことは大人になるとすっかり忘れてしまうからです。あんな親にだけは絶対になるまいと言っていたくせに 大人になると子供の心はもうすっかり忘れてしまっています。そんな親だけで子供の話をしても子供の考えていることは理解できません。だからといって子供に尋ねても子供は素直には教えてくれません。子供の心を知るには子供の意見を代弁してくれる代弁者が必要です。あるいは子供が子供の意見として話し合える 安全で安心な場が必要です。

【 親探しを始めた養親さんのためのサロンを作ろう 】

養親さんはこどもが『 親探しをしたい 』と言い出したことで動揺します。これだけ大切にしていたのに これだけ大事にしたのに それなのに子供が親探しをしたいと言い出すなんて 私たちの愛が足らなかったのだろうか。なにか不満に思わせてしまったのだろうか。何か至らなかったのだろうか。そう不安に思われるのではないかと思います。そしてこれまでの話を読んで子供の心は理解した。必要性もわかった。自分が誤解している部分も分かった。知らないことも分かった。でもでも一言いいたい。いや一言言わせてほしい。そんな気持ちもあるのではないのでしょうか。

養親さんの気持ちを代弁すると 『 私という彼女（両親）がいながら 会いたい（ルーツ探し）会いたい（面会）と言って 元カノ（生母）に電話（交流）したりメール（交流）したりする。また気持ち（プレゼント）だ 気持ち（写真）だ といって贈り物をもらう。そんな彼氏（子供）を 何も言わずに 逢引き（面会）に送り出す そんなやるせない気持ち。分かってくれる？ でもね 子供が大好きだから しょうがないんだよね 子供が大好きだから 子供を愛しちゃったから 惚れた弱みで黙って送りだす。わかってんだけどね～ 分かってくれる～ 』 そんな気持ちではないのでしょうか。

そんな養親さんには養親さんのための仲間が必要です。親探しを始めた養親さんのための養親サロンを作りましょう。親探しを始めた先輩養親さんのための養親による養親サロンです。なければ集めましょう。いなければ支援者を加えましょう。養親さんには仲間が必要です。戦友が必要です。

【 養子さんには同じ背景を持った養子さん同士の居場所が必要である 】

養子家庭の背景は特殊なために なかなか一般家庭の子供には理解されません。養子さんには同じ背景を持ちお互いの境遇について理解しあえる そして悩みを打ち明けることができる養子さん仲間が必要です。親にはすべての話を打ち明けることができません。意を決して打ち明けても養親さんには感覚的にも理解できないこともあります。親には話せない あるいは話しても理解してもらえない親探しを始めた子供のための悩みを打ち明ける場所が必要です。そしてそんな養子さんだからこそその悩みがあります。そしてそれには安心して打ち明ける場が必要です。しかし一朝一夕にそんな仲間を作ることはできません。気心の知れた仲間を作るには 信頼を醸成するには時間が必要です。そのためにできるだけ早い時期から養子さん同士で話をできる場を作っておきましょう。そのために養親サロンを利用しましょう。養親サロンには必ず子供と同伴で参加しています。親子と一緒に参加する養親サロンは将来的には養子サロンの苗床になります。小さい頃から親同士で交流があり 交流の場に子供も連れて行くので自然と顔見知りになります。そしてある時期から 親同士 子供同士で別々に集まるようにして 子供同士で話ができるようにしておきます。そしてこの養子さん同士の集まりはやがて養子サロンとなり 子供のためのお互いの悩みを打ち明けられるピアサポートグループとなります。